

平成29年度大会シンポジウム資料

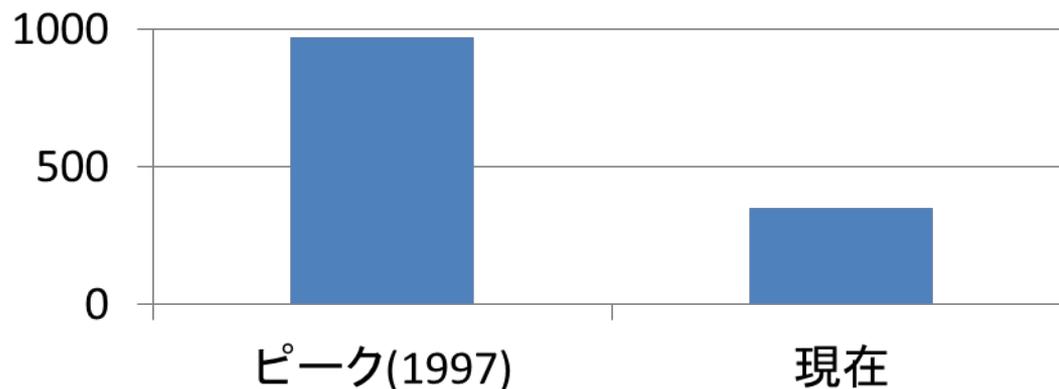
保険業界が学会に求めること

2017.10.28

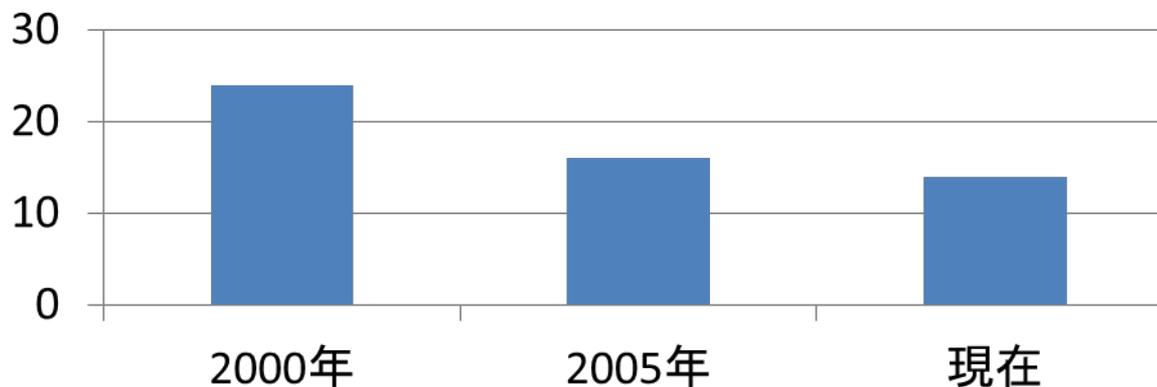
三井住友海上 村田 毅

1. 業界の再編・統合、事業・収益構造の変化、市場構造の変化

(1)実務家会員数の減少

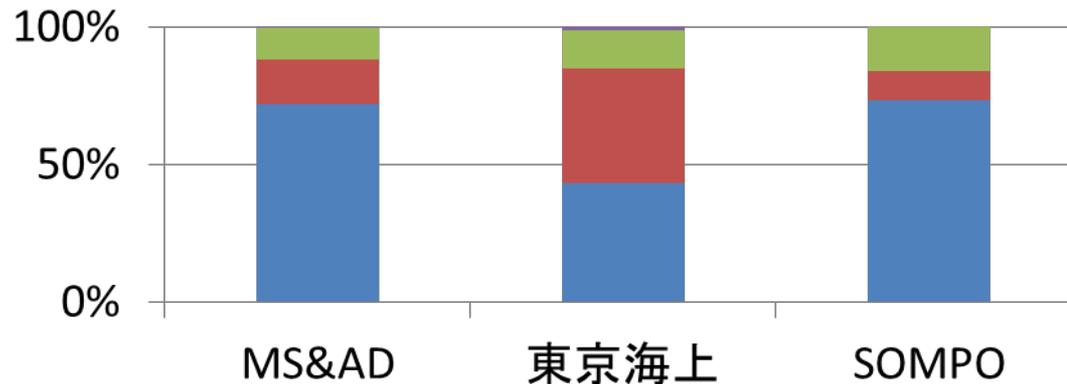


(2)保険会社の統合



1. 業界の再編・統合、事業・収益構造の変化、市場構造の変化 — つづき

(3) 大手グループのドメイン別収益比率



(4) ダイレクト、少額短期保険会社、ニッチ保険会社等の登場

- 1999年：ソニー損保、アクサダイレクト、2000年：三井ダイレクト、2001年：安田ライフダイレクト・・・現在9社
自動車保険に対するシェア約7%
- ペット保険、旅行保険などに特化した保険会社
- 少額短期保険会社：92社

2. 保険会社、実務家を取り巻く課題 (順不同)

(1) デジタル技術によるリスクと機会 (サイバーリスク)

- サイバーアタックによる保険事故・リスク (物の損害: プラント制御システムの乗っ取り、情報の損害: 個人情報漏えい、ランサムウェア)
- 米国を中心に30億ドル規模のマーケットが2020年には100億ドルとの予測も

(2) 技術革新がもたらす競争、市場縮小、さらには破壊的イノベーション

- ブロックチェーンの活用 (貨物保険の事務処理、保険金支払業務)、AIによる分析 (苦情、コールセンター対応)
- テレマティクス保険、InsurTechによる新たな展開、競争
- 自動運転車両、シェアリングエコノミー等によるマーケット縮小・消失

(3) 地球環境・気候変動

- 熱帯低気圧の強大化、ゲリラ豪雨、海面上昇など自然災害リスクの拡大
- (新興国の) 都市化、地盤沈下、森林破壊などによる自然災害被害の拡大

2. 保険会社、実務家を取り巻く課題 つづき

(4) ILSマーケットの拡大

- 2017上期、ILS計で\$89bn(世界のReinsurer Capの15%)
- うちCat Bondが\$20bn 2017上期発行\$8bn(過去最高の2014年通期を上回る)

(5) ERMの伸展

- 時価ベースの会計、資本基準
- リスクの定量化とリスク選好に基づくリスクリターン管理
- 分散効果の追求

(6) 監督・規制のグローバル化

- ICS(IAISの策定するInsurance Capital Standard) 検討の進展
2017年ICS1.0が公表され、ICS2.0を目指した検討が進められている。
- 保険IFRSの導入
2017年、保険IFRSが公表され、2020年度適用開始に向けて準備が進む

2. 保険会社、実務家を取り巻く課題 つづき2

(7)顧客本位の業務運営に関する原則(2017.3.30)抜粋

【利益相反の適切な管理】原則3

(注)金融事業者は、利益相反の可能性を判断するに当たって、例えば、以下の事情が取引又は業務に及ぼす影響についても考慮すべきである。

- 販売会社が、金融商品の顧客への販売・推奨等に伴って、当該商品の提供会社から、委託手数料等の支払を受ける場合

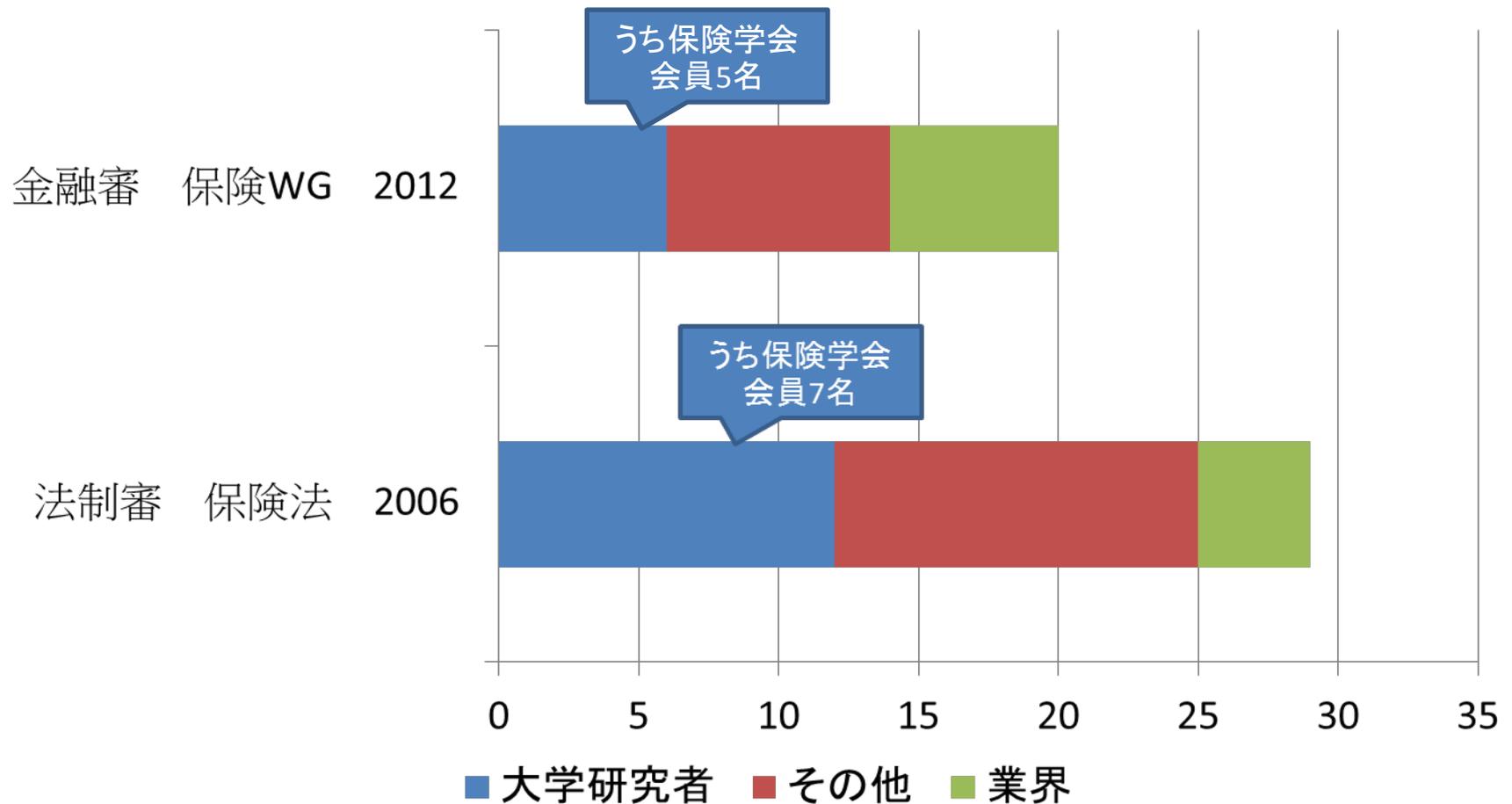
【重要な情報の分かりやすい提供】原則5

(注1)重要な情報には以下の内容が含まれるべきである。

- 顧客に対して販売・推奨等を行う金融商品・サービスの選定理由(顧客のニーズ及び意向を踏まえたものであると判断する理由を含む)

(注5)金融事業者は、顧客に対して情報を提供する際には、情報を重要性に応じて区別し、より重要な情報については特に強調するなどして顧客の注意を促すとともに、顧客において同種の金融商品・サービスの内容と比較することが容易となるよう配慮すべきである。

3. 法律・制度論議における研究者の参画



4. 実務家の関心と大学研究者の接点

たとえば・・・

- ネットワーク社会への対応
 - 新たな技術によるリスクと機会、それらへの対応
 - ERM、国際資本規制、IFRS ⇒ 定量的分析・リスクモデルの開発
 - 顧客本位の業務運営 ⇒ 実証分析、法令・制度論議
-
- ⇒ 共同研究の試行
 - ⇒ 大学教育への情報提供

5. 共同研究の取り組み

(1)実務家との「戦略的共同研究」アンケート

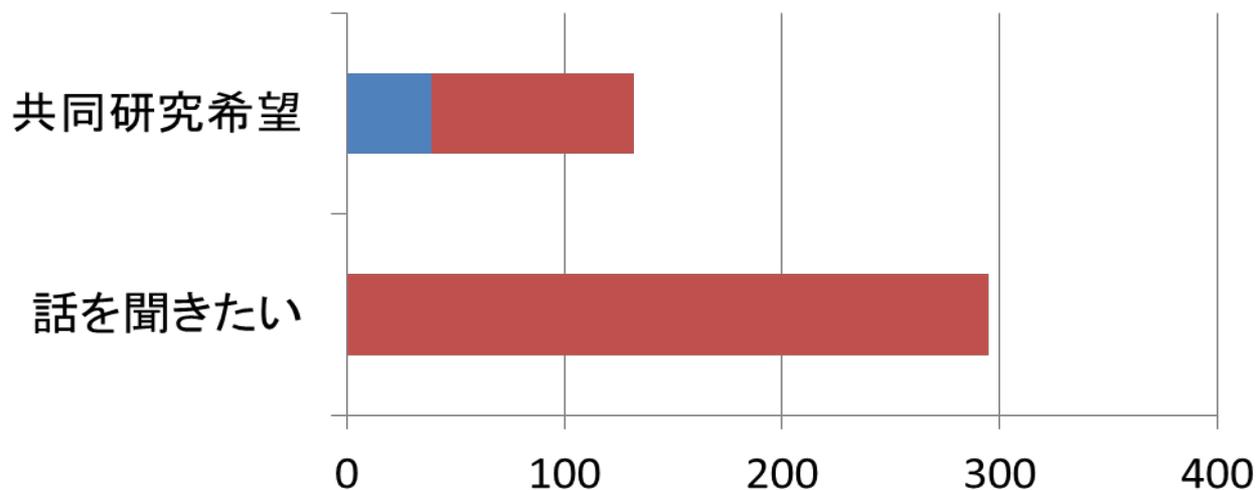
2016年実務家アンケート結果(生損保、共済)

共同研究希望テーマ:131

* 最多はFinTechやIoTなどのニューリスク関連で39

研究者に話を聞きたいテーマ:295

* 最多のニューリスク関連に加え、自然災害、高齢化、個人情報などが多く含まれる



5. 共同研究の取り組み つづき

(2) 具体的なテーマの例

- AIによる誤った回答、自動運転車による事故、FinTechによる損失などにかかわる法律問題
- 自然災害、人為的リスク、気候変動等への対処を巡る防災、経済、保険各分野の研究者の連携
- 水文学、水理学を反映させた洪水発生メカニズムの解析
- 地震波の周期と建築物被害の関係を脆弱性曲線に反映させる地震モデルの開発
- ヒューマンエラーの発生原因分析と再発防止

5. 共同研究の取り組み つづき2

(3) 試行的な共同研究の取り組み(例)

- 効果的な契約更改手続(損保)のためのアンケート調査の分析
- Webリサーチ:有効1000サンプル(性別、年齢、職業、婚姻、居住地などのプロフィール把握)
- 以下の観点を含む40の質問の回答を収集
 - ① 満期案内、更改手続についての認識と評価
 - ② 更改手続の将来像についての受容性

5. 共同研究の取り組み つづき3

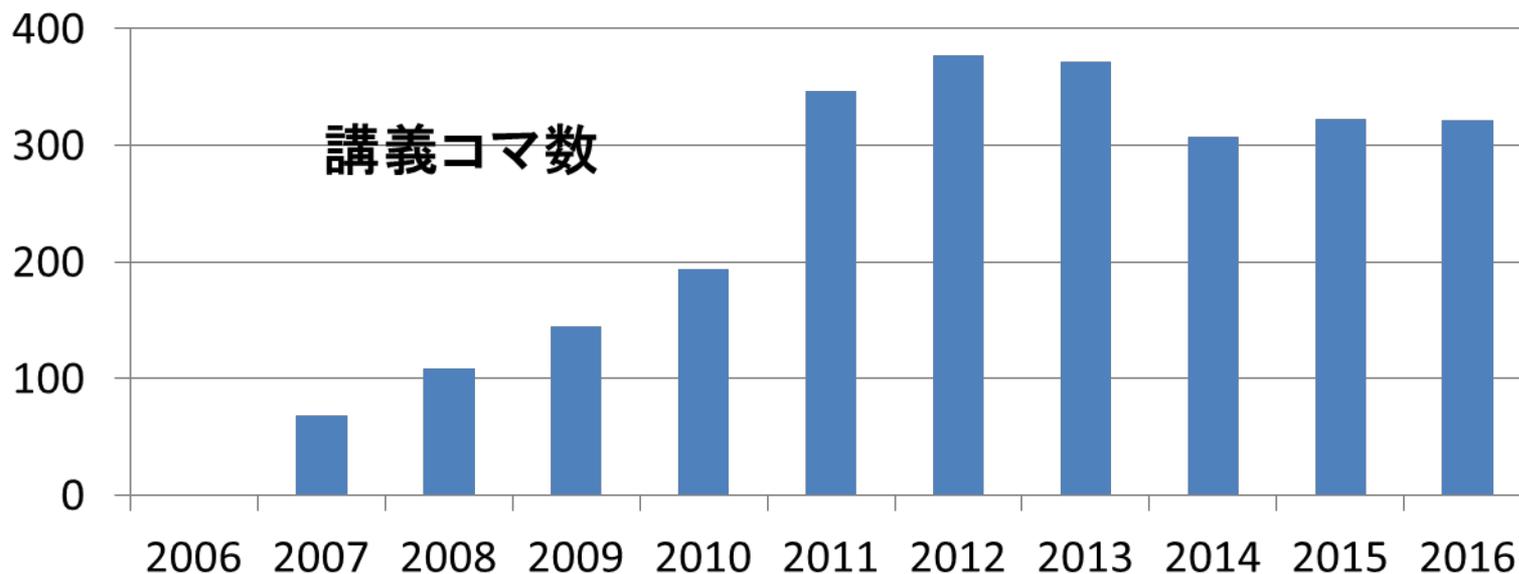
(4)研究者への提供と分析

- 個人情報・会社機密情報を含まず、調査受託会社との契約に反しない範囲でデータを開示
- 回答者プロフィールと回答内容の組み合わせを変えて分析を試行
- 新たな結論を得るには不十分ながら、課題の抽出・確認が成果
- 新たな発見が得られた場合の公表範囲・時期なども課題

6. 実務家から大学教育への情報提供

(1)大学への講座提供(損保業界)

- 損保協会を中心に、大学、高校、消費者等に向けた保険の講座を提供(連続講義が多い)
- 協会が大学向けに実施している講義の回数:321(2016)
学期を通じた連続講座として実施中:14大学(2017)
- 金融・保険のリテラシー教育として機能



6. 実務家から大学教育への情報提供 つづき

(2)連続講座の実施内容(例)

(前半、基礎編)

保険の仕組み・歴史、保険の基本的な事項(用語、約款、販売方法、監督法制など)、リスクの概観(個人のリスク、企業のリスク)、リスクマネジメント、各保険の内容(交通事故と自賠責・自動車保険、火災保険、地震保険など)のような基本事項

(後半、応用編)

企業分野の多様なリスクと保険・再保険の仕組み、ERM、損害保険会社の経営など、保険リテラシー教育より踏み出した内容

6. 実務家から大学教育への情報提供 つづき2

(3)大学生に興味を抱かせるテーマを盛り込む

知的好奇心に訴えるテーマ(例)

- 企業分野の先端的な保険、専門的な保険
- リスク・コンサルティングの具体的活動・リスク軽減効果
- 金融技術やリスクモデルを活用したART(ILS、デリバティブ)
- 再保険の仕組みとマーケット
- リスクの定量化(リスクモデルの仕組みと活用)
- ERM・資本配賦(リスクテイク)の最適化

技術革新や保険の周辺テーマ(例)

- 自動運転、テレマティクス
- 苦情分析やコールセンター業務におけるAIの活用
- 貨物保険実務等におけるブロックチェーンの活用
- InsurTech

6. 実務家から大学教育への情報提供 つづき3

(4) テーマの検討と講師

「専門的ではあるが、学生を惹きつけるプログラム」を大学教員と実務家で検討したい。

実務家のみならず、先端領域の研究を行っている教員や専門家を講義に招き入れることも必要

ご意見、ご提案、あるいは立候補をお願いします。